

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 24
2018. 4

TOPICS

1

平成30年度岡山大学入学式、大学院入学式を開催



本学の入学式が2日、ジップアリーナ岡山で開かれ、学部・大学院生ら計3,453人の新入生がキャンパスライフの第一歩を踏み出しました。

榎野博史学長が「自分を信じて何事にも積極的に取り組み、仲間とともに充実した大学生活を送ってほしい。皆さんとともに築くこれからの岡山大学の未来が、これまでの本学の歴史や伝統を超えるものとなり、皆さんにより大きな誇りと自信をもたらすことを期待している」と式辞。新入生を代表して医学部の近藤大翔さんが「新入生一人一人、夢や目標を持つ中で、苦しいことや辛いことがあるかもしれないが、仲間と協力し合い切磋琢磨し続けスキルを高めていきたい」と宣誓しました。

岡山大学交響楽団による祝典曲演奏や、応援団総部応援団からのエールもあり、会場を盛り上げました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7440.html

大学院ヘルスシステム統合科学研究科の看板除幕式を挙

TOPICS

2

本学は平成30年4月、8番目の研究科となる大学院ヘルスシステム統合科学研究科を新設し、4月5日、看板除幕式を挙りました。

除幕式には榎野博史学長、高橋香代理事・副学長（企画・評価・総務担当）、妹尾昌治研究科長ら教職員約50人のほかに、1期生となる博士前期課程・博士後期課程の学生約80人も出席しました。

本研究科は、健康にかかわるさまざまな「現場」つまりHealth Systemをテーマに、課題やその背景を発見、「解析」し、解決策を「創り」、「使う」ことで、現場の「改善」につなげる、課題抽出から改善に至るサイクルを科学的に実践する課題解決能力を育てます。岡山大学として研究科を新設するのは13年ぶりのことです。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7473.html

最近の大学の取り組み

第1回金光賞授賞式を開催 20人を表彰



本学は4月2日、研究や国際活動等で顕著な成果を挙げた学生に贈る「金光賞」の第1回授賞式を、ジップアリーナ岡山で開きました。

授賞式では受賞者20人の名前が読み上げられ、榎野博史学長が受賞者代表2人に表彰状と顕彰金目録を授与しました。榎野学長は「この受賞を糧として引き続き精進し、これからも大いに活躍されることを期待しています」と激励。小長啓一Alumni（全学同窓会）会長は「皆様の普段からのたゆまぬ努力が実り、今日の受賞となったものと思います。岡山大学のこれからを引っ張っていく人材と確信し、期待しています」と祝辞を述べました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7469.html

「岡山大学臨床研究審査委員会」 厚生労働省より認定取得 4月1日に設置



「岡山大学臨床研究審査委員会」が3月30日、臨床研究法の対象となる特定臨床研究を審査する委員会として、厚生労働省より認定されました。全国で49の委員会が認定され、中国・四国地方では、本学を含め4機関に設置された委員会が認定されました。

昨年4月、臨床研究の実施の手続きや、認定臨床研究審査委員会による審査意見業務の適切な実施のための措置、臨床研究に関する資金の提供に関する情報公表の制度などを定めた「臨床研究法」が公布されました。それに伴い本学では、「岡山大学臨床研究審査委員会(仮称)」の設置準備を進めてきました。今回の認定により、4月1日施行の臨床研究法における特定臨床研究の審査を行うことが可能となります。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7443.html



環境生命科学研究科の国枝教授が 日本農学賞と読売農学賞を受賞

農学分野で優れた成果を挙げた研究者に贈られる「平成30年度日本農学賞」と「第55回読売農学賞」の授与式が4月5日、東京大学で行われ、本学大学院環境生命科学研究科の国枝哲夫教授が両賞を受賞しました。畜産技術協会附属動物遺伝研究所の杉本喜憲所長と共同で行った「遺伝的・不良形質の原因遺伝子解明による家畜生産性の向上」の研究が高く評価されました。

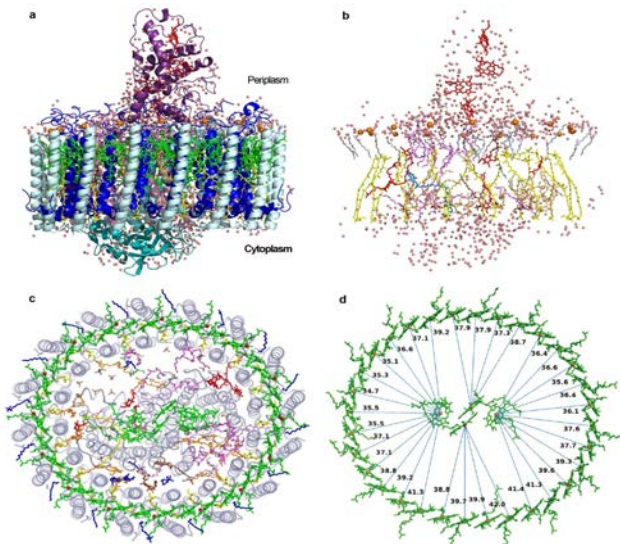
日本農学賞は、農林水産系の学会を取りまとめる日本農学会が農学上顕著な業績を挙げた者に授与しており、1925年の創設以来、日本の農学研究者にとって最高の栄誉とされています。読売農学賞は、園芸、環境、バイオテクノロジー、農作物などの分野で優れた業績を挙げた研究者を「日本農学賞」の受賞者から選出し表彰するものです。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7468.html



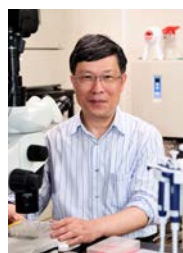
授与式に出席する国枝教授(前列左から2人目)

光合成細菌光捕集タンパク質複合体の 正確な三次元原子構造を解明 —光エネルギーの高効率利用に前進—



LH1-RCの構造

岡山大学異分野基礎科学研究所(大学院自然科学研究科)の于龍江特任助教、沈建仁教授(理化学研究所放射光科学研究センター客員研究員)らの研究グループは、光合成細菌において光エネルギーを捕集し、電子伝達を行っている巨大な膜タンパク質複合体LH1-RCの立体構造を、大型放射光施設SPRING-8を利用して高分解能で正確に突き止めました。このタンパク質複合体は光合成において、太陽光エネルギーを高効率で吸収・伝達し、電荷分離を行っており、光エネルギーを化学的エネルギーに変換する役割を担っています。



沈教授

本研究成果は4月4日、英国の科学雑誌「Nature」に掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id535.html

